

# 須賀川市放射性物質除染方針

平成 23 年 8 月

## 1 はじめに

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が県北、県中地域そして本市にも降り注ぎ、農地、山林、宅地、学校、道路などすべての土地や動植物などに深刻な汚染を引き起こしています。特に岩瀬地区、長沼地区、仁井田地区など本市西部地域については、現在においても毎時1～2マイクロシーベルトの放射線量を計測するなど、極めて不安な生活環境にあります。

このような状況の中、わたしたちは、子どもの安全安心を最優先に位置付け、できる限りの対策を講じ対処していかねばなりません。いまだ、原発の事故は収束せずに進行中ではありますが、市の復旧復興の前提として、須賀川市全市の放射性物質の除染をしていかねばなりません。わたしたちは、何年かかろうとも以前の清らかな須賀川市を取り戻さなければなりません。まずは、子どもの生活の場から除染を始め、間断なく作業を進めていく必要があります。そして、わたしたちは、この歴史上類がない困難な事業を成功させましょう。

平成23年8月

須賀川市長 橋本 克也

## 2 放射性物質除染作業の前提

### (1) 放射線モニタリング調査の実施

除染作業の前提として放射線量測定器により、身近な生活空間を詳細に測定することにより放射線量が高いホットスポットを事前に確認し、子どもたちが不要に立ち入ることのないようマーキングしておく必要があります。とくに、通学路にホットスポットが認められるときは、除染を急ぐ必要があります。児童公園など遊び場についても測定しておく必要があります。

### (2) 除染方法の調査研究

除染の方法については、確立したものはないので、県の実証実験や先行している事例などを参考に、モデル的に事業を実施していくこととします。除草や側溝清掃ばかりでなく最新技術による効率的な除染方法も検討していきます。

### (3) 放射性廃棄物仮置場の設置

当面、放射性物質を含んだ廃棄物の保管が問題となります。国や県はその地区に仮置場を設置するよう指導しています。本市としては、地区の皆さんとの十分な協議と理解のうえで、公共的用地内に、当面、仮置場を設置する考えであります。適切な保管容器を活用するなど、仮置場の放射線量がその地区より

低く抑えられるようにします。なお、保管場所には人がみだりに立ち入らないよう囲いを設け表示するとともに、定期的に放射線量を測定します。

いずれ、国において最終処分場が決定した段階で、掘り起こしたうえで移動するものとします。

#### (4) 関係団体の役割分担

除染作業には、多くの人手と手間がかかります。本来は原因者で行うのが当然ですが、現実問題として、すみやかに対応するためには、当面は、わたしたちが協働してやらねばならないと考えています。それぞれの地区において、町内会・行政区を中心としてPTA、ボランティア団体、消防団、老人クラブなどの地域団体に役割を分担し、活動できる人員を確保する必要があります。

#### (5) 業者委託事業と補助事業

除染には、高所作業や重機作業などの危険業務も含まれますので、業務によっては専門業者に委託するものと、地域団体などのできるものとの適切に分ける必要があります。地域団体による活動には、県の補助事業としての支援がありますのでこれを積極的に活用していくとともに、危険業務については専門業者

へ市で委託していきます。

### 3 除染の優先順位

本市においては、すべての土地の除染が最終的な目標であり、除染方法の確立など世界の英知を集めての技術開発に期待するものが大であります。優先して除染すべき順位を決めて実施していく必要があります。

#### (1) 子どもの安全安心を優先する

放射線からの影響が大きい子どもの安全安心を優先して、子どもの日常生活圏から除染します。

①校庭・園庭の表土除去⇒②校舎・園舎の洗浄⇒③通学路のホットスポットの除染⇒④児童公園・遊び場・公共施設の除染⇒⑤住宅の除染⇒⑥宅地の除染

#### (2) 放射線量の高い地区から先行する

放射線量の高い地区ほど大量被ばくの危険性・緊急性が高いため、他地区に先行して速やかに実施します。

岩瀬地区⇒長沼地区⇒仁井田地区⇒稲田地区⇒西袋地区

#### (3) モデル地区を選定して実施する

本市の効率的かつ確実な除染方法の確立のため、モデル地区

を選定し、アドバイザーの指導のもと除染実験を行います。

#### (4) 農用地、山林の除染

農用地や山林の除染については、土壌改良、植物利用による除染など国、県、JAなどの技術指導を受けながら除染作業を実施します。

### 4 具体的スケジュール

除染については、実証実験をしていないため、その期間については何年かかるかはわかりません。子どもたちの生活空間から放射性物質をできるだけ除去し、放射線量の低減対策等取り組めるところから順次実施していきます。具体的スケジュールについては、今後、状況の変化に合わせてつつ柔軟に策定していきたいと考えています。